

○認知症に関するかかりつけ医の疑問に答える

認知症の診断

問診で知るべき認知症の臨床
症状のポイントを教えてください
さい

回答者 繁信 和恵

認知症が疑われる患者を初診するとき

①病的なもの忘れか、生理的なもの忘れか、
うつ病やせん妄などによるもの忘れか(表)、
または認知症の前段階にある軽度認知障害(M
CI)か、②認知症と診断された場合、その原
因疾患は何か、とくに治療可能な認知症か否か、
③認知症の重症度はどの程度か、を念頭におい
て問診を進めることが必要である。

患者さんが診察室に入ってくる時点から歩行

や椅子の座り方や、服装、挨拶や医師への接し
方、表情などにも認知症の各疾患に特有の症状
が表れることがあるため、注意深い観察が必要
である。

病識について聴取する

認知症であれば初期の段階から、本人がもの
忘れを訴える場合でも、その度合いは周囲の観
察者が感じるもの忘れの度合いに比べて、軽く
感じていることが知られている。したがって、
本人と家族の受診の動機やもの忘れを感じる度
合いを別々に聞き、隔たりがないかをまず確認
する。

疾患に特徴的な症状を聴取する

家族は介護上、困っていることを中心に訴え
る場合も多く、各疾患に特徴的な症状を認知症
による症状と気づいていない場合も少なくない。
そのため、発症・罹病期間・進行様式などに

認知症と生理的老化によるもの忘れの相異

	認知症	生理的老化によるもの忘れ
経過	進行性	進行しない
状態像	<ul style="list-style-type: none"> ・体験の全体を忘れる ・最近の出来事を覚えられない ・もの忘れを自覚していない ・しばしば適当な事実ではないこと(作話)を話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験の一部を忘れる ・名前・日付などをとっさに思いだせないことがある ・もの忘れを自覚していて、補うか謝る
見当識障害	あり	なし
日常生活	営むのが困難	支障がない
幻覚・妄想	随伴することがある	なし
人格	変化することがある	変化しない

いて診察者が各疾患に特徴的なものを聞きだす工夫が必要である。

アルツハイマー型認知症は約75%が記憶障害で発症し、緩徐進行性の経過をたどる。初期から中期にかけてはとくに女性では、主介護者に対して「財布や通帳を盗まれた」などの物盗られ妄想を呈する割合が高い²⁾。初老期発症の場合には「ネクタイがうまく結べない」「奥行きが分からず、エスカレーターに乗りづらい」といった視空間性の認知障害がもの忘れに先行して出現することもあるので注意を要する。

レビー小体型認知症でも、進行性の認知機能低下が必須であるが、幻視・幻聴などの精神病症状で始まるものが少なくない。幻視は特徴的で、「毎日5人決まった子供がやってくる」などかなり具体的で、自分にしか見えたり聞こえたりしないことがある程度分かっていることも特徴的である。幻視と関連して被害妄想や嫉妬妄想が形成されることもある。身体的には動作緩

慢や筋固縮などのパーキンソン症状が認知機能低下や精神症状と前後して現れる。また認知機能の日内・日間変動や転倒、REM睡眠時行動異常を示す場合も多いためこれらの聴取も必要である。

前頭側頭葉変性症は初老期の発症が多い。もの忘れはかなり進行するまで目立たない場合もある。前頭側頭葉変性症のうち前頭側頭型認知症では、早期から病識が失われ、周囲への気遣いがなくなり、脱抑制と呼ばれる本能のおもむくままの行動など人格・行動面での障害が目立つ³⁾。最近ではこの疾患の患者さんの「万引き」が取りざたされているが、例えば店先から勝手にパンを盗って食べたとしても、悪びれたところはなく、罪の意識もない。本人は悪気もないが反省もないので、周囲が苦慮していることが多い。意味性認知症では簡単な語の意味が分からない、家族の顔を見ても誰だか分からない、ありふれた品物が何であるか分からないといっ

た語や顔、物品の意味記憶障害が前景にたち、次第に人格・行動面の障害が加わる。

脳血管性認知症では、高血圧症、糖尿病、心疾患などが既往症として見られやすい。急激または階段状の進行を示し、不均一な認知機能障害を示す場合が多い。しかし、Binswanger病のように大脳白質病変が優位となる場合は緩徐に進行するため、アルツハイマー型認知症などと鑑別がつきにくいこともある。

その他、鎮痛剤や睡眠剤の多用、転倒などによる頭部外傷の既往による慢性硬膜下血腫、胃全摘出の既往によるビタミンB₁₂欠乏症により認知機能の低下を引き起こす可能性がある。そのためそれらの既往についても配慮を要する。加えて上述したように、うつ病による仮性認知症の鑑別も必要なため、心理状態の把握も重要である。

(財団法人浅香山病院 精神科)

老人性認知症センター)

文庫

- ↳ Kazui, H., et al. : Symptoms underlying unawareness of memory impairment in patients with mild Alzheimer's disease. *J. Geriatr. Psychiatry Neurol.*, 19, 3~12(2006)
- ↳ Shigenobu, K., et al. : A structured, open trial of risperidone therapy for delusions of theft in Alzheimer disease. *Am. J. Geriatr. Psychiatry*, 11, 256~257(2003)
- ↳ Shinagawa, S., et al. : Initial symptoms in frontotemporal dementia and semantic dementia compared with Alzheimer's disease. *Dement. Geriatr. Cogn. Disord.*, 21, 74~80(2006)

